

2025年
10月18日(土)

13:30開場 14:00開演

会場 亀山市文化会館大ホール

入場料：全席自由500円

音 絢

vol. 8

おと
ない

緋の華が咲き、青の風が吹く
音を絢い、新たな響きへ。

緋^ひ華^{ばな}
と
青^{せい}風^{ふう}



加賀丈子
(津軽三味線)



凛
(和太鼓、篠笛)



塚田陵子
(唄)



多田智大
(津軽三味線)



灯おどり保存会

9月1日(月)
前売開始

プレイガイド

亀山市文化会館、亀山エコー案内所、
鈴鹿ハンター

演奏予定曲

- ♪ 亀山音頭
- ♪ 亀山小唄
- ♪ 南部倭積み唄 (青森県民謡)
- ♪ Amazing Grace (作詞: John Newton)
- ♪ 乱舞 (オリジナル曲)
- ♪ ソーラン節 (北海道民謡)

他

※演奏予定曲目は変更になる場合がございます。予めご了承ください。

主催：(公財) 亀山市地域社会振興会 (亀山市文化会館)
後援：亀山音楽協会、レディオキューブFM三重
助成：(公財) 岡田文化財団
お問合せ先：亀山市文化会館 ☎ 0595-82-7111

～プロフィール～

凜（和太鼓・篠笛奏者） —Rin—

三重県鈴鹿市出身。

2003年、名古屋にて和太鼓プロチームを創設し、中心メンバーとして全国各地で演奏。2010年よりソロ活動を本格化し、日本国内にとどまらずこれまでにオランダ・ベルギー・アメリカ・アジア各国など海外公演も多数。世界各地の舞台で和の響きを届けている。

同年、ちふれ化粧品CM等で「SAVE WOMAN」として注目され、メディアでも多数取り上げられる。

2015年には第14回三重県文化賞新人賞を受賞。1stアルバム『凜』をリリース。

ピアノやヴァイオリンなどの洋楽器、尺八や三味線などの和楽器に加え、オーケストラ・吹奏楽・書道・ダンス・ミュージカルなど、ジャンルを超えた表現者とのコラボレーションを重ねてきた。舞台の形式にとらわれない、柔軟かつ力強い表現に定評がある。演奏活動のほか、演奏指導や楽曲提供も行い表現の幅を広げている。

また、地域文化の保護にも積極的に取り組み、「森の京都DMO」文化観光サポーターとしても活動。

京丹波町の無形文化財継承など、文化と土地、人と人をつなぐ役割を担っている。

鈴鹿市「すずか応援アンバサダー」、同市文化事業団評議員も務める。

加賀丈子（津軽三味線） —Tomoko Kaga—

大阪府枚方市生まれ。中学時代、伯父の影響で津軽三味線に魅せられ、地元の稽古場で手ほどきを受け始める。

平成12年より、日本民謡協会豊寿会（ほうじゅかい）・津軽三味線家元である内田寛氏に師事し、厳しい指導のもとで技術を磨く。内田寛氏の元で内田流津軽三味線師範代を許され、全国大会コンクールでは数々の優秀な成績を収めた。

令和4年には民謡歌手・遠藤小百合氏に新たに師事。令和5年には「豊寿会」より独立し、自身の会『津軽三味線ともの会』を発会。

津軽三味線の力強い響きと、繊細で情感豊かな表現力を兼ね備えた演奏で注目を集める。

古典津軽民謡を基盤としながらも、独自の感性による即興的な表現には定評があり、洋楽器共演など、多彩な舞台で活躍。

伝統と革新を融合させたスタイルで、津軽三味線の可能性を広げている。

全国各地でのコンサート出演のほか、学校公演や文化イベントにも積極的に取り組み、子どもから大人まで幅広い世代に日本の伝統音楽の魅力を伝えている。

その演奏は、ただの技術にとどまらず、心に深く響く「語る三味線」として、多くの聴衆を魅了し続けている。

塚田陵子（唄） —Ryoko Tukada—

11歳で箏に出会い、その後、民謡の世界に進む。箏曲では正派生田流の師範資格を取得し、古典芸能に根ざした確かな技術を身につける。

京都外国語大学では、言語や異文化理解を学びながら「日本の音」についても改めて見つめ直すようになり、民謡のもつ力や地域文化の大切さを実感。大学在学中から京都市を拠点に演奏活動を行い、舞台経験を重ねる。

2012年、「ふるさと長浜を日本の音色が絶えないまちにしたい」という想いのもと、長年暮らしていた京都市から長浜市へ拠点を移す。

民謡の指導に加え、当時長浜市では前例のなかった民謡コンサートの企画・開催を行い、民謡および和楽器の普及に努める。

また、長浜、滋賀、ニッポンの魅力をSNSで発信する事にも注力し、ふるさとの音を未来につなぐため、舞台活動、教育、司会など、幅広く活躍中。

多田智大（津軽三味線） —Chihiro Tada—

滋賀県守山市在住

2007年生まれ

7歳の頃、祖母が通う民謡教室の発表会に着いて行ったことをきっかけに民謡三味線を日本民謡西藤流 荒川智彦氏に師事する。後に、唄も始める。8歳の頃、津軽三味線に興味を持ち、山口晃義氏に師事する。

また、民謡の伴奏に使われていた尺八に興味を持ち、12歳の頃より二宮謙蔵氏に師事し、民謡はもとより、古典本曲、地唄等も学ぶ。

現在、津軽民謡の唄・唄付けの師事を弘田るみ氏に仰ぎ、尺八を石川利光氏に師事している。

幅広い演目とトークを交えたソロステージ、民謡の伴奏者としての舞台、他ジャンルの音楽家とのコンサートなど、数々のステージを経験しながら研鑽を積む他、指導にもあたっている。

2025年、第43回津軽三味線世界大会においてチャンピオンを17歳で受賞。

灯おどり保存会

「灯おどり」は、昭和32年（1957年）から続く、亀山伝統の踊り。

亀山の地場産業であるローソクに火を灯したボンボリを手に持ち踊るのが特徴。

灯おどりを継承するため、亀山市納涼大会、関宿祇園夏まつり、東海道関宿街道まつり等に参加している。